

### 第3章（基準3）

#### （教育課程）

#### 3-1. 教育目的が教育課程や教育方法等に十分反映されていること。

##### 《3-1の視点》

3-1-① 建学の精神・大学の基本理念および学生のニーズや社会的需要に基づき、学部、学科又は課程、研究科又は専攻ごとの教育目的が設定され、学則等に定められ、かつ公表されているか。

3-1-② 教育目的の達成のために、課程別の教育課程の編成方針が適切に設定されているか。

3-1-③ 教育目的が教育方法等に十分反映されているか。

##### （1）3-1の事実の説明（現状）

3-1-① 建学の精神・大学の基本理念および学生のニーズや社会的需要に基づき、学部、学科又は課程、研究科又は専攻ごとの教育目的が設定され、学則等に定められ、かつ公表されているか。

本学の教育目的は、学則及び大学院学則第1条に掲げており、その内容等については、大学案内、学生生活ハンドブック・シラバス等に掲載を行い公表している。

##### 〔経営情報学部〕

学則第3条に掲げている目的に基づき、現代のビジネス社会が求めている経営と情報を1つに融合させた学際的、かつ実地的な知識・技術と国際コミュニケーション能力を身に付けた創造的実践的人材の育成を目指している。

これらの内容等については、大学案内、学生生活ハンドブック・シラバス等に掲載を行い公表している。

##### 〔グローバルスタディーズ学部〕

学則第3条に掲げている目的に基づき、英語による学びを基本とし日本と世界の文化、歴史をはじめとする、国際教養を身につけ国際基準のコミュニケーション力を向上させる教育を行っておる。これらの内容等については、大学案内、学生生活ハンドブック・シラバス等に掲載を行い公表している。

##### 〔経営情報学研究科〕

大学院学則第1条に掲げている目的に基づき、トータルマネジメントの本質を体得し、真の意味での経営を遂行して成果を挙げる人材、新たな時代を切り拓く人材を育成する。

これらの内容等については、大学院案内、院生ハンドブック・シラバス等に掲載を行い公表している。

3-1-② 教育目的の達成のために、課程別の教育課程の編成方針が適切に設定されているか。

##### 〔経営情報学部〕

国際性・学際性・実理性を理念とする教育を目指す多摩大学の建学精神に基づき、「現代の社会が求めている経営と情報を融合した知識・技術を基に国際コミュニケーション能力を発揮してビジネス社会の最前線で問題解決にあたる人材を育てる」というミッションに基づきカリキュラム（教育課程）を編成している。卒業までに身につけるべきこととして、以下に挙げるものが求められる。

（1）ゼミナール中心の教育により問題解決に必要な実践的知識獲得および解決力。

(2) カリキュラムの多面的履修を通して、豊かな人格形成の基本と基礎的な学力を養い、特定の専門領域にこだわらずに問題を探求する姿勢。

(3) 双方向型の少人数教育をとおしてコミュニケーション力や論理的説得力。

(4) 4年間にわたる教育課程をバランスよく学ぶことにより、国際的ビジネスの場で活躍し、わが国の産業社会の健全たる発展に寄与できること。

(5) 志を持って周囲に感動を与え、遂行できること。

上記カリキュラムポリシー実現のために、経営や情報、コミュニケーション力の基礎を学ぶ「基礎教育」、基礎教育で身につけた知識や技能を生かし、将来の方向性に合わせて学び、専門性を深める「専門教育」や実業界での応用力を養う「演習科目」からなる教育課程を編成している。

### 〔グローバルスタディーズ学部〕

国際性・学際性・実際性を理念とする教育を目指す多摩大学の建学精神に基づき、「グローバルな問題を解決し、グローバルな舞台で活躍する人材を育てる」というミッションに基づきカリキュラム（教育課程）を編成している。卒業までに身につけるべきこととして、以下に挙げることが求められる。

(1) グローバルな共通語としての英語によるコミュニケーション力。

(2) 異なる文化や習慣、価値観を理解し受け入れるというグローバル市民となる基本。

(3) 日本の文化・歴史・風土を学び、日本とは何かを説明できる知識。

(4) グローバルな問題を考え、その解決の一端を担い、地球社会の未来に貢献しようとする姿勢。

上記カリキュラムポリシー実現のために、基礎教育科目と専門教育科目からなる教育課程を編成している。

平成21（2009）年入学生から教育課程の編成を行い、下記新カリキュラムを導入した。

(1) 学生の英語力の更なる向上のための英語集中プログラムの2年次以降への追加

(2) 基礎教育科目のコアとなる心理学、哲学、文化人類学に加え、環境、メディア・情報、経済の科目を追加

(3) 専門教育科目のコースを「ホスピタリティ・マネジメントコース」、「インターナショナル・デベロップメントコース」「グローバル・ビジネスコース」とし、マーケティング、ホスピタリティなど実学科目を追加

(4) 留学生受入のための日本語講座科目を追加

### 〔経営情報学研究科〕

平成21（2009）年4月よりカリキュラムを建学の精神に則り大きく改訂した。”一業をマネジメントできる人材の育成・経営を真に理解した人材の輩出”実現のため、カリキュラムのフレームワークは、マネジメント実践者必須のビジネス知識と時代認識（「ビジネス基盤知識」及び「世界・アジア・日本の変化」）を土台に、「経営実学5ドメイン」（マーケティング・サプライチェーン・ファイナンス・ヒューマンリソース・インテグレーション）を核として位置付け、さらに勉強したことを実践する場として「ビジネスアウトレット」を加えたものとした。

## 3-1-③ 教育目的が教育方法等に十分反映されているか。

### 〔経営情報学部〕

実学重視、志教育、問題発見、解決能力の陶冶といった教育の目的・方法に即して、ゼミナール中心の少人数教育で、グループワーク、フィールドワークなどを多く取り入れた双方向型・参加型のアグレッシブな講義を行っている。これにより、問題解決の場が設けられ、学生がより実際的に問題に対処する中で学習できる環境が十分に整えられている。

平成21（2009）年4月より、「自己発見（多摩大道入門）」の発展的形態として「プレゼミナール」（1年次生春必修）を導入し、専任教員が全員で関わる科目とした。これは、大学入学前までの一方向的、受け身的な学びではなく、能動的態度によって学習するという本学の方針を理解し、そうした方法に慣れ、より円滑に大学での学びが成果を上げるため、全教員が関与すべく、設置したものである。さらに、「インターゼミⅠ・Ⅱ」（2年次以降春・秋）の導入によって、組織横断型（両学部および経営情報学研究科の教員・学生が参加する形態）のゼミナール活動を行った。

### 〔グローバルスタディーズ学部〕

教育目的を達成するための教育方法としては、「少人数の対話式講義」を原則としている。具体的には、対話式による講義により学生が参加・発表することを促し、成績評価の方法として試験よりもクラス参加（出席＋発表、討議）を重視している。

### 〔経営情報学研究科〕

教育目的を達成するために、院生に対し受身ではなく自主的に問題にアプローチするスタンスを身に付けさせるとともに、上場企業やオーナー企業社長の講演を講義に織り交ぜ、受動的に話を聴くのではなく、問題の核心はどこにあるのかまたトップは問題をどう認識しているのか等の質問が的確にできるよう指導を徹底している。

## （2）3－1の自己評価

### 〔経営情報学部〕

全教員が関わる「プレゼミナール」や組織横断型の「インターゼミ」の導入により、グループによる学習を通じた双方向・能動的な学習態度を身につけさせることができた。また、3ないし4名の教員が期を通じて共同で学生グループの教育にあたることによる効果があったこと、また、「インターゼミ」における多様な学生・教員間のプロジェクト形式の学びの場の経験を通じた教育効果をあげたことは評価できる。

### 〔グローバルスタディーズ学部〕

昨年度の自己点検評価において、学生のニーズと英語力が想定していた以上に多様であることに触れたが、その対応策として完成年度を待たずに平成20（2008）年12月19日付けで本学部の教育内容の見直しを大学設置・学校法人審議会宛に申し入れを行い、平成21（2009）年1月に認可され、平成21（2009）年度入学生より新カリキュラムを設ける特例措置をとった。これにより、2つのカリキュラムが並行する形となったが、科目配置等を整えたことは、大学の教育理念により近づいたので、適切と判断している。

### 〔経営情報学研究科〕

教育目的が教育課程や教育方法に反映されていると評価している。

ただし、教育課程の編成方針に対する院生の理解にまだ不十分なところがあるのでこの点を解消していくことが今後の課題である。

### **(3) 3-1の改善・向上方策（将来計画）**

#### **〔経営情報学部〕**

新たに導入した「プレゼミナール」および「インターゼミ」についての初年度の経験に基づき、当初の目的に対する効果を見極め、さらに充実したものにすることを旨とする。

#### **〔グローバルスタディーズ学部〕**

完成年度を迎えるまでの学年進行期間中は制約があるので、現状維持を最低とし、まだ教員配置が手当てされていない科目の担当の決定に注力する。

平成21（2009）年度より開始した新カリキュラムで追加した科目については、秋学期から段階的に開講した。学生の受講者数も多く、「Voice」の満足度も高いので、平成22（2010）年度以降は、また、外部講師の招聘を含め、内容を充実させることとする。

さらに、履修モデルの改善のため新規科目の検討、既存科目の統廃合についても可能な範囲で推進する。

#### **〔経営情報学研究科〕**

教育編成方針についての院生への指導を徹底し、教育目的の理解を深めさせることに力点を置く。

3-2. 教育課程の編成方針に即して、体系的かつ適切に教育課程が設定されていること。

### 《3-2の視点》

3-2-① 教育課程が体系的に編成され、その内容が適切であるか。

3-2-② 教育課程の編成方針に即した授業科目、授業の内容となっているか。

3-2-③ 年間学事予定、授業期間が明示されており、適切に運営されているか。

3-2-④ 単位の認定、進級及び卒業・修了の要件が適切に定められ、厳正に適用されているか。

3-2-⑤ 履修登録単位数の上限の適切な設定など、単位制度の実質を保つための工夫が行われているか。

3-2-⑥ 教育内容・方法に、特色ある工夫がなされているか。

3-2-⑦ 学士課程、大学院課程、専門職大学院課程等において通信教育を行っている場合にはそれぞれの添削等による指導を含む印刷教材等による授業、添削等による指導を含む放送授業、面接授業もしくはメディアを利用して行う授業の実施方法が適切に整備されているか。

### (1) 3-2の事実の説明(現状)

3-2-① 教育課程が体系的に編成され、その内容が適切であるか。

#### 〔経営情報学部〕

基礎科目に、「コア科目」および「選択科目」を配し、選択科目では、「言語論理コミュニケーション」「経営情報基礎」「知的素養」の3群を設置して、体系の可視化を行っている。また専門科目においては、「地域観光」「戦略」「マーケティング」「グローバル」「経営管理」および「ビジネス社会への適応」「特定のビジネス分野へのブリッジ」などの科目群を設定し、経営情報学部としての学習の体系を示した。

#### 〔グローバルスタディーズ学部〕

平成21(2009)年4月の新カリキュラム導入時に体系的に全体を大きく2つの科目群に分け、再編成した。

平成21年度入学生以降カリキュラムについては以下のとおりである。

#### (1) 基礎教育科目分野

グローバルスタディーズ学部で学ぶための基礎知識・基礎技能を身につける、また、専門教育科目への準備を目的としている。

#### (2) 専門教育科目分野

「ホスピタリティ・マネジメント」「インターナショナル・ディベロップメント」「グローバル・ビジネス」の3つの領域で構成。そのどれも、知識が実践と結びつけられるよう、また実社会にでる準備とする教育がなされるように位置づけられている。

#### 〔経営情報学研究科〕

平成21(2009)年4月の新カリキュラム導入時に実学(5ドメイン)のカリキュラムを体系的に再編成した。具体的には、「マーケティング」「サプライチェーン」「ファイナンス」「ヒューマンリソース」「インテグレーション」のドメイン群に加え、「世界・アジア・日本の変化」「ビジネスの基盤知識」「ビジネスアウトレット」3つのカテゴリーを配置している。

### 3-2-② 教育課程の編成方針に即した授業科目、授業の内容となっているか。

#### 〔経営情報学部〕

授業科目のリスト、各授業科目の内容ともに、編成方針を踏まえ、教務委員会を中心として討議し、決定・指示している。

専門教育科目では、情報分析システム開発区分に「ITマネジメントⅠ」「ITマネジメントⅡ」地域観光マネジメント区分に「観光概論Ⅰ」「観光概論Ⅱ」「地域観光とビジネス」戦略区分に「アントレプレナーシップ論（起業論）」を選択科目、選択必修科目としてそれぞれ、導入した。演習科目群では、「プレゼミナール」を必修科目とし、また「社会工学研究会Ⅰ」「社会工学研究会Ⅱ」が選択科目として導入された。

#### 〔グローバルスタディーズ学部〕

平成21（2009）年4月から新カリキュラムを導入し、新カリキュラムの約4分の3を秋学期から開講した。科目を129科目から177科目にし、一部は隔年開講とした。

基礎教育科目では、「現代世界における日本」「環境論」「情報化社会とグローバル化」「経済学原論」を選択必修科目として導入した。また、留学生のための日本語科目（日本語中級Ⅰ、日本語中級Ⅱ、日本語上級Ⅰ、日本語上級Ⅱ）を配置した。専門教育科目では、ホスピタリティ・マネジメントの区分で「ホスピタリティ」「翻訳入門」「通訳入門」「世界の食文化」を、国際・ディベロップメントの区分では、「リーダーシップ」を、グローバル・ビジネスの区分で「マーケティング」「簿記」「財務諸表分析」「金融工学入門」を、それぞれ開講した。

#### 〔経営情報学研究科〕

平成21（2009）年4月からは、教育理念や教育課程編成方針に則りそれまでのカリキュラムを再編成した。履修科目も整理し、125科目から86科目へと約2/3に縮小した。またそれまでの、院生が学びたい科目を自由に受講するスタイルから、一業マネジメントのためにどうしても必要な科目として実学5科目（「マーケティング」「SCM」「ヒューマンリソース」「インテグレーション」の各「概論」）だけは必修科目として強く推奨することとした。経営者の関心が自らの興味ある分野に偏れば、全体経営にはマイナスとなることを教育しようとしたものである。

### 3-2-③ 年間学事予定、授業期間が明示されており、適切に運営されているか。

#### 〔経営情報学部〕〔グローバルスタディーズ学部〕〔経営情報学研究科〕

年間学事予定と授業期間を学生生活ハンドブック、院生ハンドブック、大学ホームページへの掲示などで明示し、オリエンテーションで説明を行い適切に運営している。

### 3-2-④ 単位の認定、進級及び卒業・修了の要件が適切に定められ、厳正に適用されているか。

#### 〔経営情報学部〕

経営情報学部授業科目履修規程に基づき、厳正に運用している。

また、認証評価での指摘を踏まえ平成21（2009）年度入学生より、卒業必要単位数について、124単位と改善した。

#### 〔グローバルスタディーズ学部〕

グローバルスタディーズ学部授業科目履修規程に基づき、厳正に運用している。

カリキュラム変更に伴い、平成21（2009）年度入学生より基礎教育科目の必修単位8単位を選択必修に変更し、科目選択の機会を増やした。また、特別優秀な学生のための早期卒業制度を導入した。

#### 〔経営情報学研究科〕

多摩大学大学院学則第24条及び第26条に規定している内容に基づき、厳正に運用している。年次別履修科目の上限および、進級要件については特に設けていない。

**3-2-⑤履修登録単位数の上限の適切な設定など、単位制度の実質を保つための工夫が行われているか。**

#### 〔経営情報学部〕

経営情報学部授業科目履修規程に基づき、厳正に運用している。

履修科目の上限については、半期22単位までとし、学生が履修した授業科目に十分な予習・復習の時間を割くことができるように配慮している。

#### 〔グローバルスタディーズ学部〕

グローバルスタディーズ学部授業科目履修規程に基づき、厳正に運用している。

認証評価での指摘を踏まえ平成21（2009）年度入学生より、各学期の履修上限数を1年次生32単位から26単位に、2年生以降は22単位に制限した。なお、GPAの運用にともなって、履修中止制度を導入した。

#### 〔経営情報学研究科〕

年次別履修科目の上限は特に設けていないが、少人数である利点を活かし、論文指導教員や職員によるきめ細かい履修指導を行っている。

**3-2-⑥ 教育内容・方法に、特色ある工夫がなされているか。**

#### 〔経営情報学部〕

問題解決能力の道筋をつけるための導入教育として平成21（2009）年度より、「プレゼミナール」を1年次生の必修科目として開講した。

1クラスあたり30から40人で、3ないし4人の教員が共同で指導にあたっている。

#### 〔グローバルスタディーズ学部〕

平成21（2009）年度春学期より本格的にVoice（学生による授業評価）を行い、改善策を取りまとめた。

AEP（英語集中プログラム）を1年次の重点科目としており、担当教員（専任4名と非常勤講師8名）が教育方法の標準化と連携を行っている。その結果、TOEICで計った英語力は平成21（2009）年入学者においては入学時の平均TOEICスコア370点が一年次終了時の平成22（2010）年1月時点で434点と向上し、全国の大学1年生の平均スコアである412点を上回る結果を出している。

一クラスあたりの受講学生数は平均15名であり、60名以上のクラスは分割するなど、きめ細か

い教育を行い、特色としている。

#### 〔経営情報学研究科〕

統合された実践的な知識習得のために実学志向に基づいて5つのドメインを深化させた。コースとしての縛りはなく、複数とれるよう、社会人学生の多様なニーズに対応したものになっている。学部と同様、「志」を育てる「現代の志塾」を標榜し、より高度で実践的な少人数・双方向型の教育を展開している。

**3-2-⑦ 学士課程、大学院課程、専門職大学院課程等において通信教育を行っている場合にはそれぞれの添削等による指導を含む印刷教材等による授業、添削等による指導を含む放送授業、面接授業もしくはメディアを利用して行う授業の実施方法が適切に整備されているか。**

#### 〔経営情報学部〕

本学に該当なし

#### 〔グローバルスタディーズ学部〕

本学に該当なし

#### 〔経営情報学研究科〕

本学に該当なし

### (2) 3-2の自己評価

#### 〔経営情報学部〕

カリキュラムポリシーは適切に設定されていると、評価している。

#### 〔グローバルスタディーズ学部〕

新カリキュラムにおいて専門コースの再編成と名称変更を行い、新規教員の採用などにより科目の追加を進めたが、専門コースにより進捗度の差があり、改善の余地を残した。

Voice(学生による授業評価)の総合評価の結果が平成21(2009)年春学期は4.00、秋学期は4.13と学生の満足度は高いレベルにあるため、教育課程が適切に編成されていると判断する。

#### 〔経営情報学研究科〕

教育課程については、概ね編成方針に沿って適切に設定されていると評価しているが、各ドメイン内の科目数や各ドメイン内の科目内容のバランスに偏りが見られるので修正を図っていく予定である。

### (3) 3-2の改善・向上方策(将来計画)

#### 〔経営情報学部〕

平成22年度より、グローバルスタディーズ学部と授業科目履修規程を統合して規程を整備し、両学部で共通運用とする予定である。また、履修方法の厳格化を、学則に明示する予定である。

#### 〔グローバルスタディーズ学部〕

平成22年度より、経営情報学部と授業科目履修規程を統合して規程を整備し、両学部で共通運用とする予定である。また、履修方法の厳格化を、学則に明示する予定である。

教育課程については、特に専門教育科目の充実、統廃合、基礎教育科目との関連性も含めた体系化



を検討する。

**〔経営情報学研究科〕**

各ドメインにドメインチーフを設け、ドメイン内の科目数の統一や科目内容の整合性を図るよう検討を行う予定である。

**3-3. 教育目的の達成状況を点検・評価するための努力が行われていること。**

**《3-3の視点》**

**3-3-①学生の学習状況・資格取得・就職状況の調査、学生の意識調査、就職先の企業アンケート等により、教育目的の達成状況を点検・評価するための努力が行われているか。**

**(1) 3-3の事実の説明（現状）**

**〔経営情報学部〕**

学習状況については、「Voice」の結果について教員自己点検と改善策を求め、教員全体で共有している。毎年、卒業生にキャリア支援に対してのアンケートを行っている。  
インターンシップの派遣先企業より、フィードバックを受けている。

**〔グローバルスタディーズ学部〕**

学習状況については、「Voice」の結果により教員に改善策を求め、教員全体で共有している。  
平成21（2009）年度より初めて学生の意識調査を行った。  
卒業生がいないので、卒業生の就職先の企業アンケートはこれからであるが、インターンシップを昨年度から開始しており、受入れ企業・組織からフィードバックを受けている。

**〔経営情報学研究科〕**

具体的にアンケートや意識調査等を行っていないが、「院生会」との打合せや、メールでのコンタクト、論文指導で密に接点を持つこと等で、教育目的の達成状況の把握に努めている。これは少人数教育ならではの対応である。

**(2) 3-3の自己評価**

**〔経営情報学部〕**

「Voice」については、開学より継続して行っており、評価できるが、就職先の企業アンケートなど教育目的の達成を確認する制度づくりが課題である。

**〔グローバルスタディーズ学部〕**

「Voice」などの点検・評価するための制度は、導入しているが、出口からフィードバックした、教育課程の検討は、今後の課題である。

**〔経営情報学研究科〕**

社会人のニーズにあった授業評価システムの導入と併せて、教職員と院生の定期的な意見交換会の開催等を検討している。

**(3) 3-3の改善・向上方策（将来計画）**

**〔経営情報学部〕**

教育目的の達成状況を点検・評価するためのアンケートを充実させることを検討する。

**〔グローバルスタディーズ学部〕**

「V o i c e」の改善に努める。平成23（2011）年3月に学部としての第1期生が卒業することもあり、出口からのフィードバックを含めた、教育目的の達成状況を点検・評価するための各種調査を検討する。

**〔経営情報学研究科〕**

大学院生に対する授業評価「V O I C E」の導入を検討している。

### 〔基準3の自己評価〕

#### 〔経営情報学部〕

カリキュラムポリシーは適切に設定されており、評価している。

全教員が関わる「プレゼミナール」や組織横断型の「インターゼミ」の導入により、グループによる学習を通じた双方向・能動的な学習態度を身につけさせることができた。

点検・評価については、「VOICE」を、開学より継続して行っており、評価できるが、就職先の企業アンケートなど教育目的の達成を確認する制度づくりが課題である。

#### 〔グローバルスタディーズ学部〕

平成21（2009）年度入学生より新カリキュラムを設けた。これにより、2つのカリキュラムが並行する形となったが、科目配置等を整えたことは、大学の教育理念により近づいたので、適切と評価している。

新カリキュラムにおいて専門コースの再編成と名称変更を行い、新規教員の採用などにより科目の追加を進めたが、専門コースにより進捗度の差があり、改善の余地を残した。

教育目的のための点検・評価については、「VOICE」の改善に加え、出口からフィードバックした、教育課程の検討が、今後の課題である。

#### 〔経営情報学研究科〕

教育目的に沿った教育課程が適正に設定され運用されていると評価している。

各ドメインの科目数、科目内容等のバランスの偏りの修正は必要である。また、教育目的の達成状況の点検・評価のために授業評価の導入を検討する。

### 〔基準3の改善・向上方策（将来計画）〕

#### 〔経営情報学部〕

新たに導入した「プレゼミナール」および「インターゼミ」についての初年度の経験に基づき、当初の目的に対する効果を見極め、さらに充実したものにすることを目指す。

実学教育を行う、教育課程の編成はしているが、社会からのフィードバックのシステム構築には至っていないので、対応を検討する。

#### 〔グローバルスタディーズ学部〕

完成年度までの3年間は、設置計画に沿ってカリキュラムを提供することに努める。

学生の声とニーズにきめ細かく応える努力を続け、1期生以降の卒業生の就職、キャリア支援に全力を注ぎ、それを以って学部の発展を図る。

#### 〔経営情報学研究科〕

トータルマネジメントの本質を体得した人材を育成するために、各ドメインのバランスをとることや、実学的論文指導を徹底するなど教育課程及び教育方法の整備・充実を図っていく。